



南信総体・・・躍動する選手と支える“選手”たち

5月16日(金)から本格的に南信地区高校総体が開催され、各競技で個人・団体の熱戦が繰り広げられました。3日間の天候は晴れ→大雨→晴れと不安定でしたが、延期による実施も含め全日程が無事に終了しました。

クラブ加入の状況 本校のクラブ活動加入については、令和4年度までは生徒会会則に「いずれか一つのクラブおよび同好会に必ず属さなければならない」(兼部可)と規定されていましたが、様々な理由により令和5年度からは「・・・に属することを基本とする」と変更されました。その結果、全校生徒の加入率は、R4年度:104.5%、R5年度:100.2%、R6年度:102.2%、R7年度:98.3%と推移しています(各年度5月1日現在)。今年度の運動系加入率は54.5%で、全校生徒の過半数が運動部に所属しており(学芸系は43.8%)、本大会を大きな目標として日々の活動に熱心に取り組んできました。

熱戦の様子 本校はバスケットボール競技の会場になり、コロナ禍と異なり大体育館のフロアやギャラリーは保護者の方をはじめ関係者の熱気に包まれ、各所で大きな声援が飛び交っていました。ソフトテニス競技の女子団体戦では、思うように結果が出なかったペアがここ一番で勝利し、チームの上位進出に貢献しました。ゲーム直後のミーティングで、涙を流す選手一人一人に握手する監督の姿が印象的でした。5つの会場を回中で、多くの高校生に接する機会に恵まれました。残念ながら県大会への進出が叶わなかった競技もありましたが、特に3年生はよく努力を積み重ねてきたと思います

全員が主役 2日目の陸上競技では、一時的に大雨に見舞われる中を補助員の生徒たちが種目ごと準備を堅実に行い、献身的に運営をサポートしていました。こうした役割や動きはどの競技でも見られ、補助員の支えがあってこそその大会であることを実感しました。控え選手、マネージャー、競技によっては主審、副審、線審、オフィシャル、コート整備係、用具準備担当・・・誰が欠けても大会が成り立たないことを思うと、関わった全ての高校生の尽力が称賛に値し、同時にその労苦に感謝します。



バスケットボール女子(本校体育館)



陸上(伊那市陸上競技場)



ソフトテニス女子(伊那市センターテニスコート)



バレーボール男子(阿智高体育館)